

令和5年度 八代市議会建設環境委員会 視察報告書

■視察日程

令和6年1月16日（火）～18日（木）

■視察先

1月16日 午後 奈良県大和郡山市

1月17日 午前 滋賀県湖南市

1月17日 午後 大阪府茨木市

■視察参加者

【委員会】	委員長	橋本幸一
	副委員長	友枝和也
	委員	田方芳信
	委員	橋本貴喜
	委員	堀徹男
	委員	山本幸廣

【随 行】	市民環境部長	嶋田和博
	議会事務局	村上政資

■視察先及び目的

1 奈良県大和郡山市

『緑の基本計画について』

大和郡山市では、都市における緑のもつ様々な機能と役割を踏まえ、長期的視点と地域の実情を勘案して、市民・事業者・行政が一体となった緑地の保全と推進に関する取り組みを総合的に進めるための目標と施策を定めるため、令和3年から令和17年までを計画期間とした緑の基本計画に基づき、持続可能性のあるまちづくりの実現に向け取組を進められている。

これまでの取組の経緯等を参考にするとともに、今後の委員会活動に生かすことを目的とする。

2 滋賀県湖南市

『ゼロカーボンシティの実現に向けた取組について』

湖南市では、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、令和4年に脱炭素先行地域に選定されており、湖南市地域自然エネルギー地域活性化戦略プランの基本方針を実現するため、エネルギー・経済の循環による地域活性化、自立分散型のエネルギー確保、地球温暖化防止への貢献の実現を主な目的として、自治体地域新電力会社を官民連携で設立されている。

設立の経緯やゼロカーボンシティの実現に向けた取組等を参考にするとともに、今後の委員会活動に生かすことを目的とする。

3 大阪府茨木市

『みちクルプロジェクトについて』

茨木市では、市の中心部をより多くの人々が訪れ、滞在し、活動したくなるようなまちなかにするため、メインストリートを景観面から魅力的にしていく取組を進められている。メインストリートの空間のあり方を検証するため、通りとしての将来像の可視化、沿道関係者等の機運醸成、歩行者・自転車の通行の啓発を目的とした社会実験を実施されており、歩きやすく歩きたくなる魅力的なメインストリートを官民が連携して実現するためのガイドラインの策定及び景観計画への反映に向け、プロジェクトを推進されている。

これまでの取組の経緯等を参考にするとともに、今後の委員会活動に生かすことを目的とする。

奈良県大和郡山市

1 視察日時 令和6年1月16日(火) 13:30~15:00

2 調査事項 『緑の基本計画について』

3 調査内容(説明内容)

※別添資料のとおり

4 主な質疑応答

Q1 樹木の維持管理について伺う。

A1 城跡公園及びスポーツ施設については、指定管理者で維持管理を行う。都市公園や市道については、入札で業者選定して管理をしている。その他については、職員で対応している状況。

Q2 緑の基本計画における事業の課題について伺う。

A2 山地・丘陵部や農地の担い手不足による管理不足や耕作放棄地の対策事業を積極的に実施しているが、調整区域により建物の制限や土地の購入制限、地域との連携が課題となっている。

Q3 緑の基本計画策定に伴う計画の立ち上げ部署について伺う。

A3 旧都市計画課が計画を策定した。現在では、みどりの基本計画におけるイベントについてはまちづくり事業課が実施し、城跡公園を利用した事業については、まちづくり戦略課で事業を推進しており、連携しながら進めているところ。

Q4 都市公園として整備するに当たり、景観法で事業を推進しない理由について伺う。

A4 城跡公園については、景観法に基づく整備は行っていないが、城下町については、景観法に沿って街並み環境整備事業で環境整備をしている。城廻り線(JR郡山駅北)の道は、城下町にふさわしい石張りの舗装を整備し、その整備内容については、地域の住民でつくる協議会で計画を策定し、また、城下町に合うような景観の建築物を建てる際にも補助をしている状況である。

Q5 Park-PFI 取組内容について

A5 市役所西側にある三の丸緑地にて計画をしていたが、コロナ禍により公募するも実現できず。来年度、公園を整備し、市民の交流の場として計画している。

【別添資料】

- ・八代市議会「建設環境委員会」行政視察研修次第、調査事項回答
- ・大和郡山市緑の基本計画

- ・ 郡山城跡公園整備イメージ図
- ・ 大和郡山市の概要

【視察の様子】



滋賀県湖南市

- 1 視察日時 令和6年1月17日（水）10：00～11：30
- 2 調査事項 『ゼロカーボンシティの実現に向けた取組について』
- 3 調査内容（説明内容）
※別添資料のとおり

4 主な質疑応答

Q 1 こなんウルトラパワー株式会社の出資者について伺う。

A 1 出資割者としては、地域の企業、湖南市及びパシフィックパワー株式会社が主な出資者となる。パシフィックパワー株式会社は、パシフィックコンサルタンツの子会社であり電力事業を展開している。出資割合は、湖南市が半数、実質的な運営については、パシフィックパワー株式会社が執り行うが、湖南市が半数を有しているため、最終決定権は市にあり。

Q 2 個人住宅に設置するソーラーパネル設置事業について伺う。

A 2 こなんウルトラパワー株式会社が所有するソーラーパネルを個人住宅の屋根に設置し、その維持管理や設置費用を負担する。初期費用を回収する仕組みとしては、2／3は国から脱炭素の補助金があり、残る1／3は電気契約をこなんウルトラパワー株式会社とすることで、契約代金から回収する仕組みとしている。発電した電力は、その住宅で使用し、使用料をこなんウルトラパワー株式会社へ支払う。

Q 3 地域商品券の仕組みについて伺う。

A 3 出資者への配当金については、単にお金を渡すだけではなく、地域にお金を落とす仕組みとして、地域商品券を配当金として配っている。コナン市民協働発電所が発電した電気をこなんウルトラパワー株式会社が買い取り、その売電益から地域商品券を発行して、出資者へ配当する仕組みとなっている。

Q 4 地域新電力の設立及びこれまでの取組のきっかけ及び発案者について伺う。

A 4 地域新電力の設立についてはコンサルタント会社からの提案があった。きっかけは、2011年に緑の分権改革において、福祉事業所が共同発電所を運営していたものを市も一緒に行うことで、現在の形になった。

【別添資料】

- ・ さりげない支えあいのまちづくりオール湖南で取り組む脱炭素化プロジェクト
- ・ こなんウルトラパワー株式会社 太陽光発電所 設置実績
- ・ 第二次湖南省地域自然エネルギー地域活性化戦略プラン
- ・ 広報 Konan2023 年 6 月号
- ・ 第二次湖南省総合計画 後期基本計画
- ・ 議会概要
- ・ 湖南省市勢要覧

【視察の様子】



大阪府茨木市

1 視察日時 令和6年1月17日（水） 15:15～17:00

2 調査事項 『みちクルプロジェクトについて』

3 調査内容（説明内容）

※別添資料のとおり

4 主な質疑応答

Q 1 社会実験2回目の沿道と道路の利活用について、その詳細を伺う。

A 1 昨年11月26日にオープンした文化子育て複合施設「おにクル」に合わせ、11月25日～26日にかけて社会実験を実施。詳細については、沿道事業者等による飲食・物販の出展及び子ども達が遊べる遊具の設置、並びに景観上の取組として、夜間照明を設置した。また、沿道に来られたお客様に意見や改善点について、アンケートを実施。さらに人の動きや行動を把握・分析をするため、沿道にカメラを設置した。行動把握・分析については、現在検証中。

Q 2 社会実験アンケートの内容の詳細について伺う。

A 2 来訪者向けアンケート、沿道事業者向けアンケートの2種類あり。来訪者アンケートについては、各種属性、社会実験の取組内容、滞在活動、また、昼と夜をコンセプトにしており、どちらの要素を強くしたいかという内容となっている。沿道事業者向けには、御協力いただいた内容、店舗の利用者、期待感、所管などをアンケートに答えていただいた。

Q 3 社会実験の沿道のお店との協議について伺う。

A 3 歩道の占有利用については、警察や沿道店舗と協議を実施。歩道3mのうち、通行区間を2m確保しなければならない。日常的に歩道を占有するにはこれから検討していく。

Q 4 景観計画に基づく重点地区指定の住民との合意形成について伺う。

A 4 茨木市は、平成2年頃から要項に基づく景観の重点地区を指定しており、その後、景観法に基づく景観計画を平成23年に策定。重点地区の指定についても要項時代のものをそのまま景観計画へ移行していることから住民との合意形成で問題は起きていない。

【別添資料】

- ・ 茨木みちクルプロジェクト～より魅力的なメインストリートを目指して～
- ・ 社会実験チラシ
- ・ 議会要覧
- ・ 茨木市市勢要覧
- ・ 茨木市文化・子育て複合施設おにクル文化ホール等施設利用案内 等

【視察の様子】



《《 各委員所見 》》

建設環境委員会 行政視察所見

委員名【橋本 幸一】

- ◆視察日：令和6年1月16日（火）
- ◆視察先：奈良県大和郡山市
- ◆調査項目：緑の基本計画について

大和郡山市の緑の基本計画は、R3年度から概ね15年の計画期間として取り組まれている。緑が持つ多面的機能を発揮させる事により、SDG2のまちづくりの実現を図る為、大和郡山市の緑の基本計画は、緑のストックを世代を超えて共有財産と捉え、環境、教育、福祉、産業等々各方面での市民協働の場として「人と樹（木）をつなぐ水と緑」を育み「豊かなくらし」を目指しとあり、この緑の基本計画が全庁的な取り組みで行われる~~べきである~~^{ようである}。

この計画推進に、あたるのは、建設部、まちづくり課と関わっているが、横軸の連携が重要である。まだ始まったばかりであり、郡山城跡公園の整備が主と思われ、他に、城跡でのイベント等が開催され、市民協働の催しが行われている。

それぞれの事業は、市の直営委託、指定管理方式等で運営されていると聞かれる事であるが、自助、共助、公助を押し、緑豊かなくらしをいかに実現するかの事であるが、金魚が泳ぐ文化的景観継承プロジェクト、里山の公園の育みプロジェクトの重点プロジェクトから早く達成

出される、可成りしい所が、くが実現すると思われま。

本市の八代城跡周辺整備に関しても、共通の点も多々あると思われま。この事業の今後の推移を注視したいと思ふ。

建設環境委員会 行政視察所見

委員名【橋本幸一】

- ◆視察日：令和6年1月17日（水）
- ◆視察先：滋賀県湖南市
- ◆調査項目：ゼロカーボンシティの実現に向けた取組について

湖南市は湖南工業団地の整備により大きく発展している中、湖南
ゼロカーボンシティを達成すべく、脱炭素化プロジェクトとして、多種多様
な取組を進めているのが目撃された。

1. 湖南地域自然エネルギー基本条例も制定され地域に存在する
自然エネルギーは、地域固有の資源とする。

2. 地域経済の循環に貢献できる自然エネルギーの活用には一定のル
ールが必要。

3. 地域に根ざした主体が、地域の発展に資するよう活用する事か
必要。

以上の事に加え、市、事業者及び市民の役割を明瞭かにし、地域が
主体となる取組により、地域社会の持続的発展に寄与
する事がある。これは本市にも当てて通用する内容と言える。

この条例に加え、エフエムエールパワー株式会社、コナン市民共同
発電所、小規模太陽光×電氣販売、市民に対して1口、10万円の出資を
募った、太陽光PPA事業、低発電への取組、エフエムエールパワーが

による農福連携プロジェクト、木質バイオマス資源の持続的活用
による再生可能エネルギー導入計画策定事業、公共施設の省エネ
カーゼ導入、グリーンポイントを活用した再生可能エネルギー
事業等多くの事業に取り組まれているのには驚きである。

本市でも活用できる事業もあると思われる。又湖南省は太陽光
エネルギーが中心で一部バイオマス発電も計画しているが、本市
には更に小水力発電、風力発電、温泉に付いたバイオマス発電等、異なる
エネルギー資源の活用もあるためこれらの検討も必要か
と思われる。

建設環境委員会 行政視察所見

委員名【橋本章一】

- ◆視察日：令和6年1月17日（水）
- ◆視察先：大阪府茨木市
- ◆調査項目：みちクルプロジェクトについて

茨木市の景観条例は、国評或16年施行前前に茨木市独自に30年前から景観整備要項として整備されていて、中心市街地のまちづくりに対して早くから注力されている。又「居心地が良く歩きたくひままちが」の形成を国土交通省が示す、「ワークフル推進都市」の考え方を事業に取り組んでいるのは、本市も参考にできると思われる。

これと基本に取り組んでいる事業の「茨木みちクルプロジェクト」事業は2つの駅（2F）と1つのパーク（元茨木河川緑地、みちクル（図書館等）が併設した複合交流施設）と2つの通り（2つのイメージで令和2年より始り、現在まで、現況調査、通りの将来象の検討、空間デザインの検討、社会実馬使の実施、社会実馬使にかかる沿道事業者との連携、そして今年度はストリタラガニが休ラゴの策定、景観計画への反映、2回目の社会実馬、結果分析等が行われ、沿道事業者等への機運醸成や道路利活用に関する検証を促して、市民、関係事業者等と時間をかけた、道路空間景観協議が同時に細部にわたって、合意形成

が行われている中に、これは今後の本市の取り組みに
ついて重要な部分と思われる。今後ロードの整備に取
組まれますと思われ、完成後の経緯、更に完成後の運営
に注視していただきたいと思います。

建設環境委員会 行政視察所見

委員名【 友枝 和也 】

- ◆視察日：令和6年1月16日（火）
- ◆視察先：奈良県大和郡山市
- ◆調査項目：緑の基本計画について

緑を取り巻く様々な課題に対し、緑の保全と活用を積極的に進め「緑がもつ多面的機能」を発揮させることにより持続可能性のあるまちづくりの実現を図っていくことが課題。

2021年～2035年までの、概ね15年間を計画期間として取り組んでいく。

環境保全として、地球温暖化防止やヒートアイランド現象の緩和、二酸化炭素の吸収、大気の浄化、気温の緩和、騒音、振動の緩和。

防災としての緑の機能として、雨水の一時的な貯留や斜面地の土砂災害の防止、避難場所、火災時の延焼防止効果などが上げられる。

「みどりの歴史と人が織りなす金魚が泳ぐ豊かなまち」を基本理念とする。

建設環境委員会 行政視察所見

委員名【 友枝 和也 】

- ◆視察日：令和6年1月17日（水）
- ◆視察先：大阪府茨木市
- ◆調査項目：みちクルプロジェクトについて

都市計画マスタープランにおいて「居心地が良く歩きたくなるまちなか」や「各拠点で生まれる賑わいの面的な波及」の推進を中心市街地で目指す。

中心部の各拠点をつなぐメインストリートを、道路空間と沿線建築物が一体となった、歩いて楽しく滞在や活動したくなるような魅力ある景観形成を図ることにより、各拠点の賑わいを面的に広げ、中心市街地の活性化に寄与する。

令和2年度から4ヵ年で取組を推進。令和3年に3回のワークショップと2回の勉強会を通して、メインストリートをより魅力的な通りとするためのアイデアや通りの将来像などを検討した。

社会実験の実施では、ワークショップでの検討を踏まえ、空間のあり方を検証。2022年11月3日～11月30日の約1ヵ月間、茨木市、趣旨に賛同する沿道事業者で中央通り、東西通りにおける各所で、チラシの配布、JR阪急駅での看板、デジタルサイネージ、チラシ・ポスターの設置、市民活動団体、報道への情報提供などで周知。

通りの将来像やあり方等の検討、社会実験の実施等を行うことにより、沿道事業者等の機運醸成や空間の利用活動の推進を図ることができた。

建設環境委員会 行政視察所見

委員名【 友枝 和也 】

- ◆視察日：令和6年1月17日（水）
- ◆視察先：滋賀県湖南市
- ◆調査項目：ゼロカーボンシティの実現に向けた取組について

湖南市のエネルギー代金の流出として、約243億円。

湖南市地域自然エネルギー基本条例を2012年に制定し、2015年に湖南市地域自然エネルギー地域活性化戦略プランを立てる。

市・事業者及び市民の役割を明らかにするとともに、値域が主体となった取組により地域社会の持続的発展に寄与している。

2016年に、こなんウルトラパワー株式会社を設立。湖南市が50.86%出資。代表取締役社長には生田邦夫湖南市長。主な事業として、小売電気事業、熱供給及び熱利用事業、新事業やまちづくり事業等、地域振興に関する事業を行う。

第2次湖南市地域自然エネルギー地域活性化プランでは、基本方針として、地域自然を活用したエネルギー、経済の循環による地域活性化の推進。地域資源との関わりを見つめなおし、誰もが参画できるまちづくりの推進、強靱と脱炭素を両立した持続可能なまちづくりの推進を行う。

地域新電力（こなんウルトラパワー(株)）を核として、自然エネルギーを活用することで地域循環共生圏の実施とSDGsへの貢献を目指す。

木質バイオマス資源の持続的活用による再生可能エネルギー導入計画を、平成

29年度（2017年度）実施。森林等に賦存する木質バイオマス資源を持続的に

活用する事を目標。

建設環境委員会 行政視察所見

委員名【田方 芳信】

- ◆視察日：令和6年1月16日（火）
- ◆視察先：奈良県大和郡山市
- ◆調査項目：緑の基本計画について

緑を軸とる様々な課題に対し、緑の保全と活用を積極的に進め、「緑がもつ多面的機能を発揮させること」により、持続可能性のあるまちづくりの実現を図るべく、私たちに求められた課題だと考えられます。

本市の緑のストックを世代を超えた共有財産として認識し、

幅広い市民協働のもと「人を潤し歴史をつなぐ水と緑」を育み「豊か暮らし」を目指します。

建設環境委員会 行政視察所見

委員名【 田方 芳信 】

- ◆視察日：令和6年1月17日（水）
- ◆視察先：滋賀県湖南市
- ◆調査項目：ゼロカーボンシティの実現に向けた取組について

湖南市は、平成9年（1997）に全国初となる事業型市民共同発電所が稼働して以来、自然環境とエネルギーに関する取組のハイレベルな取り組み、近年太陽光を利用した発電所が各地に設置し、中でも「コナシ市民共同発電所株式会社」は、民間企業と市民共同発電とのコラボレーションによるもの、こちらも全国初となっています。平成24年（2012）には「湖南市地域自然エネルギー基本条例」を制定。自然エネルギーを有効活用し、さらに地域経済の循環に貢献しています。市・市民・事業者が一体となり、自然エネルギーから生み出した利益を地域に循環させられます。

建設環境委員会 行政視察所見

委員名【田方 芳信】

- ◆視察日：令和6年1月17日（水）
- ◆視察先：大阪府茨木市
- ◆調査項目：みちクルプロジェクトについて

70名を重視し、通りの将来像やあり方等の検討、社会実験の実施等

を行うことにより、沿道事業者等の機能醸成や空間の利活用の推進を

図ることができ、通りのデザインや指針や魅力ある景観形成に向けた

施策等を示したストリートデザインガイドラインの策定につなげ、法的担保

を持ちながら景観誘導を図るため、景観計画の変更を行い、良好な

景観形成の方針や行為制限に関する事項、景観重要公共施設の指定

とした新たな景観誘導の基準の設定につなげた。

魅力ある空間形成を図るためには、ハードの魅力を高めるほか、ソフト

(活動)の魅力を加えることが重要であるため、継続した沿道事業者等の

機能醸成に向けた検討やキーパーソンの発掘と育成を進める

必要がある。道路空間再編に向けた具体的な交通のあり方等の

検討を進める必要がある。

建設環境委員会 行政視察所見

委員名【 橋本 貴喜 】

- ◆視察日：令和6年1月16日（火）
- ◆視察先：奈良県大和郡山市
- ◆調査項目：緑の基本計画について

・計画の概要

緑の基本計画とは、都市における緑のもつ様々な機能と役割を踏まえ長期的視点と地域の実情を勘案して、市民・事業者・行政が一体となった緑地の保全と推進に関する取組を総合的に進めるための目標と施策を定めたもの。大和郡山市では、2021年～2035年までのおおむね15年間を計画期間としている。

・取組内容について

「緑の将来像」として、「みどりと歴史と人が織りなす 金魚が泳ぐ豊かなまち」を基本理念とし、実現に向け、4つの基本方針に基づき施策を定めて、施策全体の牽引役となる取組みを3つの重点プロジェクトとして位置づけている。

【基本方針】

1. みんなに恵みをもたらす緑をまもる
2. みんなが安心して楽しめる緑をつくる
3. 人と自然が共生するみどりをつなげる
4. 暮らしやすさを向上させる緑を育て活かす

【重点プロジェクト】

1. 緑豊かなにぎわい城下町プロジェクト
主な施策 郡山場周辺の景観保全 郡山城跡公園の整備推進 Park-PFIの活用 市民、事業者との連携・協働による多様なイベントの開催 緑の連続性と回遊性の向上 市民、事業者等との連携による緑化の促進 街路樹及び植栽帯の整備状況及び委託の管理等について
2. 金魚が泳ぐ文化的景観継承プロジェクト
主な施策 金魚池の保全、活用による観光振興 農業振興地域や同農用地区域の指定継続と農業振興策による田園景観の保全
3. 里山と公園の育みプロジェクト
主な施策 矢田丘陵地の保全、活用の促進 大規模公園の市民、事業者との連携、協働による利用促進や緑の機能の充実

・事業の成果・効果

郡山城跡公園においては、令和3年度より郡山高校城内学舎跡地の公園整備を進めており、令和5年11月に一部先行開園を行った。芝生広場、植栽等の整備を行い、市民・事業者の連携・協働の場として

イベントを開催し、にぎわいの場所となっている。

・今後の課題や問題点

保全すべき緑地である山地・丘陵部や農地では高齢化が進んでおり、担い手の減少による管理不足や耕作放棄地の増加により、環境が悪化している。郡山城跡公園では、現在整備を進めている区域以外での桜の老朽化が進んでおり、今後植え替え方法が課題となっている。都市公園や街路樹などの樹木については、年1回の薬剤散布と年2回の剪定を行っているが、近隣への落ち葉の対応に苦慮している地域がある。その他、街路樹が大きく成長し、根が歩道を盛り上げている箇所が増えてきており、根切り及び舗装の補修が必要となってきた。

本市においては、大和郡山市の緑の基本計画に該当するような計画はない。しかし、類似の計画として、八代市景観計画や第2次八代市景観基本計画がある。今回伺った課題や問題点については、本市に共通する点も多く、非常に参考になった。今後も先進事例などを学びながら、課題解決に向けて取り組んでいくことが重要である。

建設環境委員会 行政視察所見

委員名【 橋本 貴喜 】

- ◆視察日：令和6年1月17日（水）
- ◆視察先：滋賀県湖南市
- ◆調査項目：ゼロカーボンシティの実現に向けた取組について

・事業の概要、取組内容、事業の成果・効果、今後の課題や問題点

湖南市は、工業と福祉を中心とし、総生産は2717億円（2018年）のまちである。脱炭素化に向けたきっかけは、地域経済循環図をもとに、エネルギー代金の流出が243億円で、電気の流出額が最も多く、それを域内で所得循環の中に取り込むことである。これまでの流れは、湖南市緑の分権改革事業（2011年）、湖南市地域自然エネルギー基本条例（2012年）、湖南市地域自然エネルギー地域活性化戦略プラン（2015年）、こなんウルトラパワー株式会社設立（2016年）、第二次湖南市地域自然エネルギー地域活性化戦略プラン、SDGs未来都市、ゼロカーボンシティ宣言（2020年）、第2回脱炭素先行地域（2022年）となっている。湖南市地域自然エネルギー地域活性化戦略プランとは、地域新電力が核となって事業を推進していく取組で、中心となるのは、こなんウルトラパワー株式会社である。実施している取組は、①小規模分散型市民協働発電プロジェクト、②家庭用太陽光発電買取プロジェクト、③自家消費型太陽光発電プロジェクト、④イモエネルギー活用プロジェクト、⑤木質バイオマス活用プロジェクト、⑥公共施設の脱炭素化プロジェクト、⑦地域マイクログリッド構築プロジェクトである。プロジェクトは、SDGsのターゲットへの対応も提示してある。また、地域内経済循環や農福連携、林福連携にも貢献している。プラン実績（H27～31）として、経済性効果107,054千円、環境性効果1,213t-CO₂となっている。今後の課題や問題点として、予算をかけずに非常電源を整備することを挙げられている。

本市においても、SDGs未来都市に選定され、ゼロカーボンシティ宣言を行っている。湖南市が取組んでいる地域新電力を中心としたプロジェクトは、市全体を巻き込んだものになっており、非常に参考になった。地域活性化につながる施策については、検討していくことも必要と考える。

建設環境委員会 行政視察所見

委員名【 橋本 貴喜 】

- ◆視察日：令和6年1月17日（水）
- ◆視察先：大阪府茨木市
- ◆調査項目：みちクルプロジェクトについて

・事業の概要

茨木市の都市計画マスタープランにおいて、「居心地がよく歩きたくなるまちなか」や「各拠点で生まれる賑わいの面的な波及」の推進を中心市街地で目指すこととしている。次なる茨木・グランドデザインにおいて、中心市街地全体に「面」的に波及させていくため、多様な主体（民間、市民、大学、企業等）と関係・対話（＝クラウドプロジェクト）しながら、中心市街地の全体像、将来像を描いていくこととしている。市内にある2つの駅をコア、市役所周辺をパークとし、2コア1パークの拠点形成プロジェクトを行っている。また、国土交通省が示す「ウォークブル推進都市」の考え方に賛同している。事業の目的は、中心部の各拠点をつなぐメインストリートを、道路空間と沿道建築物が一体となった、歩いて楽しく滞在や活動したくなるような魅力ある景観形成を図ることにより、各拠点の賑わいを面的に広げ、中心市街地の活性化に寄与する。

・取組内容

令和2年度からの4か年で取組を推進している。まず、令和2年、通りの現況調査を実施している。令和3年、多くの方々と未来の姿を検討するため、3回のワークショップと2回の勉強会を開催し、通りの将来像を検討している。令和4年、通りのあり方を社会実験で検証している。空間デザインの検討、取組名称（みちクルプロジェクト）、ロゴの検討を行い、沿道事業者と連携し、社会実験を行っている。令和5年、ストリートデザインガイドラインの策定し、景観計画へ反映、令和4年に続き社会実験を実施している。令和6年度以降はガイドラインを踏まえた環境整備を行っていくとしている。

・事業の成果・効果

プロセス重視で通りの将来像やあり方等の検討、社会実験の実施等を行うことにより、沿道事業者等の機運醸成や空間の利活用の推進を図ることが出来た。通りのデザインの指針や魅力ある景観形成に向けた方策等を示したストリートデザインガイドラインの策定につなげた。法的担保を持ちながら景観誘導を図るため、景観計画の変更を行い、良好な景観形成の方針や行為制限に関する事項、景観重要公共施設の指定といった、新たな景観誘導の基準の設定につなげた。

・今後の課題や問題点

魅力ある空間形成を図るためには、ハードの魅力を高めるほか、ソフト（活動）の魅力を加えていくことが重要であるため、継続した沿道事業者との機運醸成に向けた検討やキーパーソンの発掘と育成を進めることや、道路空間再編に向けた具体的な交通のあり方等の検討を進める必要がある。

八代市議会 建設環境委員会 行政視察報告書

委員名【 堀 徹男 】

- ◆視察日：令和6年1月16日（火）
- ◆視察先：奈良県大和郡山市
- ◆調査項目：緑の基本計画について

大和郡山市の概要

副議長さまのご挨拶から、大和郡山市の概要についてお話を頂く。「金魚のまち」として全国一の生産量を誇り、金魚のまちとしても前面に押し出され「全国金魚すくい選手権大会」も開催されている。資料や今回うかがう「緑の基本計画」にも金魚池を活用されている。奈良県内一の工業のまちでもあり、内陸工業団地が発達している。また少子化・人口減少は本市でも同じ悩みを抱えている。とのことである。市域面積は約42.7km²に8万4千人の市民が暮らすコンパクトシティでもある。

1) 事業の計画・背景・概要・取組の内容・成果・効果

緑の将来像として、「みどりと歴史と人が織りなす金魚が泳ぐ豊かなまち」を基本理念とし、「みんなに恵みをもたらす緑をまもる」をはじめとした四つの基本方針、三つの重点プロジェクトがある。一つは有名な郡山城跡周辺の城下町を核とするもの、また金魚池の保全活用による観光振興を目的としたものがある。郡山城址の活用では「みどり豊かな城跡公園」として整備を進め、「盆梅展」、「金婚式」、「観月会」、「初日の出」など、360人が登れる天守台跡を活用しさまざまなイベントを催している。本市にも八代城址があるが神社の敷地でもあり活用の方法に一工夫要るであろう。郡山城跡公園は令和3年まで郡山高校城内学舎跡地で、その後、都市公園整備事業として取り組み中であり、令和5年11月（先々月）に一部先行開園を行った。今後15年計画で市全体の整備を進めていく計画である。

2) 今後の課題

植えた後の植栽管理が発生してくる。老木化した桜の扱いにも苦慮している。本市でも桜を植える活動が行われているが、植えるばかりで後の管理が充分に行われているとはいえず、一定数は伐木するに及び、その経費は地元町内会が負担することになる始末も発生している。その他、街路樹が大きく成長し根が歩道を盛り上げるので補修や根切りの経費負担が課題である。

3) 主な質問・回答から要旨抜粋

Q：植栽にあたっては今後将来にわたりメンテナンスが発生するが、緑の計画については新規植樹に並行しメンテの計画も折込ながらやっておられるのか？

A：城跡は指定管理者にお願いしている。市の管理分は入札の上担当課直営でやっているが単費なので予算が取れにくい。

Q：予算の出どころは？

A：総額で21億円を想定している。国の補助が1/2ある。都市公園としての整備である。

Q：景観法に基づく事業としても充分対応できそうなメニューだが、その選択ではなくあくまで公園整備を軸とされたのは？

A：こちらの方がやりやすかったのかもしれません（計画導入当時から）

Q：市内立地の企業にも緑化推進の重点に置かれているが、積極的な働きかけは？また補助金の支援はありますか？

A：立地建設時の際に法定緑化分に基づき施工してもらっている。補助は行っていない。

4) 所見

2021年から15年計画で取り組むだけあり、市内全域での緑の計画は壮大である。歴史遺産や金魚生産などの地域財産の活用もうまく取り入れた計画であった。あくまで都市公園整備ですとの説明もあったが、観光客誘致にも結び付くよう考えてあり、市全体の大きな計画であることがうかがえた。しかしながら、植栽緑化は自然物が相手でもあり、管理は容易ではないのも現実である。将来の管理状況を見る機会があるよう期待している。

◆視 察 日：令和6年1月17日（水）

◆視 察 先：滋賀県湖南市

◆調査項目：ゼロカーボンシティの実現に向けた取組について

湖南市の概要

湖南市もまた工業のまちである。約5万5千人が70.4km²に暮らすコンパクトシティである。ここでも人口減少・高齢化は同じ悩みとなっている。また福祉のまちでもあり、歴史的経緯から福祉事業所が発達していることも、後に説明のある事業にも大きく関わっている。湖南というからには琵琶湖のすぐ南に位置するイメージがあったが、湖には接していない。

1) 事業の計画・背景・概要・取組の内容・成果・効果

湖南市では地域の所得循環構造のうちエネルギー・CO₂の分野でのエネルギー代金が24.3億円域外に流出している。その規模はGRPの約8.9%となっておりその内、電気の流出額が最も多いと分析されている。2012年に「湖南市地域自然エネルギー条例を制定され16年に「こなんウルトラパワー株式会社」を設立、2022年には第2回脱炭素先行地域に選定された。現在は2020年からの第二次湖南市地域自然エネルギー地域活性化プランを基に取組中である。その核となる事業に「こなんウルトラパワー株式会社」という地域新電力がある。その地域新電力を核とする7つのプランがあり、SDGsのどの分野に対応するか一覧で解るように示してある。これが実に判りやすいと感じた。その主なものには、①FITに頼らない事業展開・小規模分散型でのソーラーシェアリング、屋根借り太陽光発電への参画や、②家庭用太陽光発電買取プロジェクトがある。農福連携、林福連携の取組推進も目指し、③イモエネルギー活用、木質バイオマス活用のプロジェクトもある。①では「コナン市民共同発電所」として出資者への元本償還配当を地域商品券で行うなど地域内経済循環にも貢献できている。その事業展開は多岐に亘るものですべてを紹介できないが、③イモ発電では福祉事業者が中心となり、ハンディのある人も関わることもできる農福連携を目指して取り組んでいる。実際に栽培したイモからメタンガスを発生させる実験を行ったが、今のところコストが見合わないようだ。今後の技術発展を期待したい。また、木質バイオマス発電では、こちら燃料づくりの過程において福祉作業所の利用者がかかわる林福連携事業としても取り組んでいる。今のところチップやペレットの生産はコストが見合わず、薪による燃料化を行っている。他、様々なプロジェクトがあるが、紹介は添付資料に譲りたい。

2) 主な質問・回答から要旨抜粋

Q：木質バイオマス発電の取組では原料となる木材の供給が必要だが、市域面積 70km²と狭い中で森林面積は少ないと思う。どれくらいの面積ですか？また、どのように取り組んでいる？

A：山林と原野で約 9km²で約 13%である。市内の森林資源の調査は行い、賄えないと判明した。そこで薪ボイラーを使用することに至っている。また、福祉の面から障害者の雇用面も兼ねている。もれなくSDGsの取組に取り入れている。

Q：農福、林福連携の取組の中で働く人の賃金はどれくらいですか？

A：それぞれの事業所、団体の雇用なので賃金は把握していない。

Q：エネルギー代金の市外流出の着眼から、7つのプロジェクトの取組はSDGsを市民生活の中に具体的に落とし込んでの方策は素晴らしい取り組みと伺った。リーダーシップや音頭取りはどこから？

A：2011年から。スタートは市民主体、福祉団体が取り組んでいたもの。障害者の雇用先もなく福祉の面から発展していった。

3) 所見

ゼロカーボンシティ、SDGs。横文字の意味の解釈からはじめ、熱心な方以外への浸透や、なかなか理解が進まない取組み、と解するが、具体的に市民生活に落とし込んである施策の巧さに感心した。特に冒頭既述したように先駆先進的な福祉のまちであり、福祉事業所も発達している中で、ハンディのある方の雇用をはじめ、随所に福祉的寄り添いがうかがえた。施策の推進力になっている。40分間の説明だったが、すべてを理解するのは困難なほど充実した施策を展開されている。持ち帰った資料をさらに読み返しなが、本市における同様事業の展開の際には役立てたいと思う。

- ◆視 察 日：令和6年1月17日（水）
- ◆視 察 先：大阪府茨木市
- ◆調査項目：みちクルプロジェクトについて

茨木市の概要

茨木市は大阪駅まで20分程度で移動できる住宅都市の一面を持つ。人約28万6千人が面積76.49km²に暮らす“都会”のまちである。また工場や（有名な食品メーカーの工場が移動途中のJR沿線でも多数見かけられる。）物流拠点もあり産業都市でもある。

1) 事業の計画・背景・概要・取組の内容・成果・効果

まず説明の中で「オニクル」「おにくる」というフレーズが出てくるが、何のことかわからない。何か施設のようなようであるが・・・今回の「みちクルプロジェクト」の核施設であるようだ。（のちに施設見学に立ち寄ることができ、背景が判明する。）このプロジェクトは中心部にある、その「オニクル」と市役所をパーク、その両側に位置する、西はJR茨木駅と、東の阪急茨木市駅の両方をコアと位置づけ、その二つのコアを東西に結ぶ通り（ストリート）をモールと呼び、駅と駅間のストリートの”にぎわいの創出”を目的に取り組むものである。資料では「オニクルは「おにくる」で旧市民会館跡地に建てられた複合施設である。昨年の令和5年11月に完成したばかりの「新たな市の顔」となる施設となった。メインストリートの現状は歩道が狭く自動車中心の道路である。土地勘が無いので図面だけではどのような道路か判らなかったが、終了後に通りへ出ると幹線道路であるとうかがえた。自転車利用も多く歩道上での歩行者との錯綜も見られ、座る場所もなく通り過ぎるだけの歩行者が多く商店等の賑わいに欠けている。そこでまず、道路歩道の現況調査を行い基礎資料を作成。通りの将来像の検討を地域や商店街とのワークショップに活用した。その結果を反映し令和4年度に駅前商店街では道路上を占用した飲食店のオープンテラスや、「おにくる」南のエリアでは同じく道路占用でのベンチ設置などの社会実験に取り組んでいる。その結果を反映し令和5年度も社会実験を重ねている。その成果・効果はプロセスを重視でき、沿道事業者や地域との機運醸成に結びついている。今後の課題としては継続した沿道事業者等との機運醸成に向け、キーパーソンの発掘と育成を進める必要がある。

2) 主な質問・回答から要旨抜粋

Q：R4 社会実験の際の道路占用の状況は？

A：カフェテラスを設けたりベンチを置いたりしたので当然車道が狭まった。自動車等からは苦情があったのも事実。当事業は景観計画で位置付けて担保させる。景観面からの取組であり、1～2年でできる事業ではないと考えている。

Q：景観計画での位置づけに抵抗はなかったか？

A：本市では平成2年から独自に景観重点計画で指定していたという経緯がある。北摂地域（京都）や神戸などは以前より景観保全に厳しいところ。そのような周辺自治体の流れに乗っていたので、抵抗はなかったと感じている。

Q：電柱の地中化、埋設が理想的だと感じたが、その計画はあるか？

A：正直申せば、地中化したいは考えているが、担当は別の課があり、お答えできない。

3) 所見

庁舎内での説明、研修を終えて退出後に「みちクルプロジェクト」の核のひとつである「おにクル」を見学に寄った。新築ホヤホヤでもあり、とてもきれいな内外装である。1200席のコンサートホール、図書館、子育て支援、市民活動スペースなどを併せ持つ複合施設である。以前、文教福祉委員会に在籍していた際に視察に行った東京都武蔵野市の「武蔵野プレイス」という施設と同様で、このような施設は現代のトレンドでもある。このような素晴らしい施設と市役所を回遊させつつ商店街等の賑わいを創出しようというスケールの大きいプロジェクトであると理解できた。室内での机上の説明ではなかなかイメージしづらかったが、実物を見るのが大事だと思う。その後の駅までの道すがら、該当の道路を見た時の状況も同じで、「こんな幹線道路を、車道を制限したり一方通行にしたりとは相当の苦情を覚悟せねば取り組めまい。」とも感じたところである。本市でも市役所と本町アーケード街をつなぐ目的で「シンボルロード」が整備されたが、その後、コンセプト通りに活用され、成果や効果がどのようになっているか検証してみたい。と思わせる「みちクルプロジェクト」の良く練られた計画を学ばせていただいた。

以上、視察先でご教示頂いたみなさまへ感謝しつつ、本市の施策に活用できるよう、再度資料を読み返しながら研究していきたい。